



- もくじ**
- 1P
 - ・第3回定例会トピックス
 - ・私の本棚
 - 「コラム・直感論は論理によって養われる」
 - 2P
 - ・中小企業融資あっ旋制度
 - ・しながわの創業支援
 - ・就業センターでキャリアアップ
 - ・結婚相談や交流会を開催



「秋」品川の花火大会

昨年に続き、今年10月12日夜7時に「天王洲運河花火」が開催されました。天王洲TYハーバー前から打ち上げられた花火はわずか15分間ですが、屋形船や遊歩道、橋の上などから多くの方が見物していました。都内でも豊かな水辺に恵まれた品川ならではの、とても近い距離で花火を見る機会は、他にはないそうです。今年見逃してしまった方は、また来年をお楽しみに！



議会で取り上げられた品川区の課題 エトセトラ

10月23日から始まった議会（～11月21日）の様です。

客引きの防止対策

いわゆる繁華街などを歩くと、客引きから声をかけられることがあります。このような行為は東京都では「公衆に著しく迷惑をかける暴力的不良行為等の防止に関する条例」が作られており、「人の身体又は衣服をとらえ、所持品を取りあげ、進路に立ちふさがり、身辺につきまとう等執ように客引きをすること」を禁止しています。大田区など8区でも区条例によって禁止しています。品川区は条例はありませんが、昨年10月には、五反田有楽街から大崎広小路交差点まで「盛り場環境浄化パレード」（写真）が行われましたが、未だにこのような行為によって地域住民や通行される方が不快感を感じると訴える声が続かないことから、来年2、3月の議会で条例を提案されることが発表されました。



待機児童対策

品川区は乳幼児人口や働くママが増えており、今年4月の認可保育園待機児童は128人と昨年の倍になりました。今年・来年で認可保育園や認証保育所などをさらに増やし、保育園の定員を1,000人以上増やす計画と発表しました。

認知症

区内の高齢者7万人のうち、認知症の方は軽度含め1万人以上という状況です。品川区には、家族以外でも地域みんなで支

えあおうと養成された認知症サポーターが5,000人以上いらっしゃいます。現在では国の方針によって、本人や家族、地域の人が気軽に立ち寄れる「認知症カフェ」の開設も増えてきています。品川区が支援することで民間の方がつくるカフェが増加するよう、また、カフェを認知症サポーターの活躍の場としても活用していきたいとしました。

特養ホーム入所基準の見直し

自宅で介護をすることが困難になると、真っ先に思い浮かぶのが特養ホームですね。申し込むと審査され優先順位が決まりますが、老健や入院した場合は在宅介護ポイントがつかず順位が下がってしまうようになっています。しかし、在宅介護を続けるための施設利用なのにポイントがないのはちょっと変ですね。老健などは3カ月で出なければならず、次の施設を探すのにも家族は大変な思いをしています。このような状況を考慮し、現在の特養ホーム入所基準を見直すこととしました。



紙おむつ支給サービスの見直し

区委託により社会福祉協議会は、介護3以上または常時失禁がある自宅で介護を受けている方へ紙おむつを支給していますが、入院等されている方には支給されていません。様々な出費もかさむことから、入院された方へは現金で支援することを検討すると答弁しました。

今秋も、お得なプレミアム付き区内共通商品券を販売します！

【発売日】11月7日（金曜）【販売額】3億3千万円分

【販売単価】1冊1万円 ※1人4冊まで購入可能

【販売場所】区内42の郵便局、商店街事務所等6カ所、品川区商店街連合会事務局【使用期限】平成27年2月28日（土）

【問合せ】品川区商店街連合会 ☎5498-5931

私の本棚

「コラム」直感論は論理によって養われる」（作家・鈴木光司）

人生において直感が重要な役割を果たす場合がある。直観とは適当でいい加減な心理作用ではなく、論理に基づいた思考と、その後の経験の蓄積がなければ養われぬものだが、「おれは直感で生きているから論理には従わない」とうそぶいている人がいたら、その直感は祖末なものであると証明されたも同然である。

ラグビーの素人が直感でボールを投げれば、トンチンカンな方向に飛んでいく。一流の選手になるには、ルール（論理）を知りその制約の中で最も合理的に動けるよう肉体を習熟させなければならぬ。論理を突き詰めた鍛錬と、それに基づいた経験を積み重ねた結果、身につくのが直感である。

ヨットなど船乗りたちは、風向、風力、潮流、天気図など自分たちが置かれている自然環境を読み、判断と決定を行う。熟練の船乗りたちが論理に基づいて豊富な経験を加えて判断したとしても、全員の見解が一致しないことがある。進むべき方向はどちらか。熟練の船長は「右から吹いてくる風がいい香りだから右に行こう」という具合に直感を働かせる。過去に似たような判断をして成功したという経験の蓄積が作用してくる。

人生も同じ。岐路に立ち、判断し、決定をしなければならぬ時に、私たちが生きていく世界のルール、仕組みを知らなければ、無数の選択の前に立ち往生してしまう。人生に習熟するとは、世界の仕組みを知り（勉強の本質がここにある）理に適った行動を積み重ね、瞬時に選択肢を二つぐらいいじり込めるようになるということ。その先の未来は、論理の及ばない世界であり、直感を働かせる以外に選ぶ方法はなくなる。（おわり）